第 37 回土木計画学研究発表会(春大会)：2008.6.6~7(北海道大学)
企画論文部門，若手研究者論文部門　セッション討議内容の記録

<table>
<tr><td colspan="2">セッション名：自転車空間整備とその評価</td></tr>
<tr><td colspan="2">日付：６月６日(金)曜日，セッション時間：９：００～１０：００</td></tr>
<tr><td colspan="2">オーガナイザー・司会者名(所属)：金　利昭　茨城大学　（報告者：山中英生　徳島大学）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">討議内容</td><td>セッション全体：岡山 53 号の自転車道および大分の自転車交通実験の事例とその評価、さらに改善策の評価を実例として発表された。全体として、実際に生じた問題に対する関心が高く、さらに沿道や市民の意識と、自転車空間の整備に向けた合意の形成上の問題についての議論が中心に行われた。</td></tr>
<tr><td>（発表番号）発表者名（所属）：１４０　崎　大樹（岡山大学）
岡山 53 号での自転車道整備効果に関する実態と意識調査分析が報告された。自転車道＋歩道と交差道路が交わる交差点での優先関係や交通錯綜状況の観測があるかについて質問がなされた。自転車等の利用者属性の判断方法について質問があり，主に服装など見かけで分類したことが回答された。</td></tr>
<tr><td>（発表番号）発表者名（所属）：１４１　寺崎健雄（ウエスコ）
岡山 53 号での自転車道について遵守率を向上させるための社会実験の結果が報告された。すれ違い時に左側へ避ける割合について質問があり，おおよそ８０％との回答があった。社会実験で施行されたマークなどが実験後撤去されていることが質問され，恒久化に向けて交通管理者との調整が必要との回答があった。自転車道が利用されない原因として，自転車交通量と歩行者交通量の比率からみて，自転車道の幅員のほうが狭い状況が挙げられる。整備にあたって，歩道部も一部自転車道路に配分する案もあったが，できなかった。また自転車道整備後は歩道を通行できないが，８０％の自転車利用者が歩道部を通行できないことを知らないとの調査結果も報告された。</td></tr>
<tr><td>（発表番号）発表者名（所属）：　１４２　吉村充功(日本文理大学)
大分市において実施された一方通行化と自転車レーン設置の社会実験についての報告があった。中高生の一部の評価が低い理由について質問があり，自転車の併走を規制したことや，路肩部を走行するよう規制したがそこに溝や段差があったことが不満の理由と考えられるとの回答があった。実施による自転車の速度について質問があったが，それほど高くなっていないとのこと。また，一方通行にした区間の設定について質問があり，迂回路を考慮して設定されたこと，迂回路には渋滞は生じなかったことが回答された。住民の評価では，事前に地域住民に説明会が実施されているが，一方通行化が知らないうちに行われたという人もおり，本格実施の段階で合意形成をうまく行う妙案は今のところ思いつかないとのこと。自転車レーンの時間帯設置が難しいのではという質問に対しては，自動車の通行方向が朝夕で異なること，終日化が難しかったとの回答であった。</td></tr>
</table>